

授業科目：成人看護学実習Ⅰ（セルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護）

科目目標：1 慢性疾患や障害とともに生活する対象の特徴を理解できる。

2 対象に合ったセルフマネジメント・セルフケア再獲得に向けての看護ができる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 慢性疾患や障害とともに生活する対象の特徴を述べられる。	1) 既往歴・現病歴と入院前の生活 2) 症状・機能障害による生活への影響 (1) 症状・機能障害の程度 (2) 二次障害・合併症 (3) ADL、IADL (4) 障害の受容過程・心理状態 3) 現在のセルフケア・セルフマネジメントの状況 4) 治療による社会的役割への影響 5) 病みの軌跡 6) ヘルスビリーフ・自己効力感	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、セルフマネジメントやセルフケア再獲得が必要な成人を受け持つ。
2 セルフマネジメントに向けての援助ができる。	1) レディネスに応じた教育方法・内容の選定 2) 症状マネジメント、苦痛緩和 3) セルフモニタリング 4) 増悪因子の回避 5) ストレスマネジメント 6) 自己効力を高める援助 7) 家族の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・退院後の自己管理を見据えて、対象に合ったセルフマネジメントやセルフケア再獲得の方法を見出す。 ・指導を行うときは、指導計画書を書き、必要時指導教材を準備する。
3 セルフケア再獲得に向けての援助ができる。	1) 変化したセルフケア能力に応じた援助 2) 二次障害・合併症予防 3) 障害受容段階に応じた適応への援助 4) 家族の障害受容への援助 5) 役割の変更に伴う援助	<ul style="list-style-type: none"> ・病状や機能障害の違いによりさまざまな援助の方法があることを、臨地および実践活動外学習で共有する。
4 セルフマネジメント・セルフケア再獲得を支援するシステムについて述べられる。	1) 保健医療福祉の連携によるチームアプローチ (1) 多職種の協働 (2) ソーシャルサポートの情報提供 (3) セルフヘルプグループへの参加 2) 法的システムの情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスに参加し他職種との関わりを学ぶ。